

厚生労働科学研究委託費・新興再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業

デング熱予防の手引き

国内侵入、流行が危惧される昆虫媒介性ウイルス感染症に対する
総合的対策に関する研究班



平成27年3月発行

監修: 濱田篤郎 (東京医科大学)

発行: 厚生労働科学研究委託費・新興再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「国内侵入、流行が危惧される昆虫媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策に関する研究班」(研究代表者: 国立感染症研究所 高崎智彦)

連絡先: 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
東京医科大学病院 渡航者医療センター
TEL: 03-3342-6111
電子メール: travel@tokyo-med.ac.jp

制作: (株)アイワエンタープライズ



2014年に日本国内でデング熱の流行が発生しました。この病気は蚊が媒介する感染症で、東南アジアなど熱帯、亜熱帯地域で流行しています。ここ数年、流行地域で感染した人が日本国内で発病するケースが増えていますが、こうした輸入例を発端として今回の国内流行が発生したと考えられています。そこで、国内流行を繰り返さないためには、東南アジアなどでデング熱にかからない注意をするとともに、国内でも国民一人一人がこの病気の予防対策をとることが必要です。

この冊子はデング熱の正しい知識を国民の皆さんに提供する目的で作成されました。

目次

- ・ デング熱とはどんな病気か..... 1
- ・ デング熱の症状..... 2
- ・ 日本国内で流行した原因..... 3
- ・ デング熱を予防するには..... 4
- ・ デング熱にかかったら..... 5

デング熱とはどんな病気か

デングウイルスによっておこる熱病で、ウイルスを保有する蚊（ネッタイシマカやヒトスジシマカ）がヒトを吸血する際に感染がおこります。この病気はアジア、中東、アフリカ、中南米、オセアニアで流行しており、年間1億人近くの患者が発生しています。とくに最近は東南アジアや中南米で流行が拡大しているため、こうした地域で日本からの渡航者が感染するケースも数多くみられます。



厚生労働省・検疫所 HP より <http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name33.html>

図1. デング熱の流行地域



図2. ネッタイシマカ

国立感染症研究所 HP より
<http://www0.niid.go.jp/niid/entomology/pictures/aegypti/aegypti.html>

デング熱の症状

デングウイルスに感染すると3～7日の潜伏期間の後に、発熱、頭痛、関節痛などの症状がおこります。また、この病気に特徴的な症状として発疹や血小板減少があります。

発疹は発病後3～4日目に出現することが多く、皮膚全体が赤くなったり、赤い斑点がでたりします。血小板減少は血液検査で明らかになりますが、半数近くの患者にみられます。

デング熱は5～7日すると熱が下がり、通常はそのまま回復します。しかし、一部の患者(1～5%)は重症型のデング出血熱をおこすことがあります。出血症状(鼻血、血便、性器出血など)やショック症状などがみられますが、輸液(点滴)など適切な処置を受けていれば命にかかわることはありません。



図3. デング熱患者の発疹

厚生労働省・デング熱診療ガイドライン

<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10906000-Kenkoukyoku-Kekkakukansenshouka/0000057969.pdf>

日本国内で流行した原因

2014年、東京都を中心に160名以上の国内感染例が発生しました。このような国内流行が発生した背景としては、次の2つの原因が考えられています。

- デング熱を媒介するヒトスジシマカの棲息域が拡大していること。最近では本州以南の広い地域に棲息しています。
- 海外から帰国後にデング熱を発病する患者が増えていること。2010年以降、年間200名前後の輸入例が確認されています。

国や自治体などでは、今後、日本国内でデング熱の流行を繰り返さないために、蚊の対策や診療体制の整備などを進めています。国民の皆さんにも日ごろから予防対策をとっていただくことをお願いします。

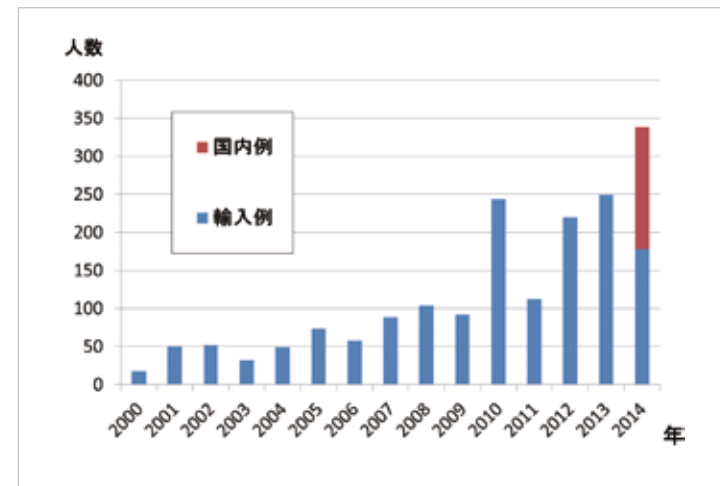


図4. 日本国内でのデング熱患者数

デング熱を予防するには

(1) 蚊を発生させない対策

日本国内でデング熱を媒介するヒトスジシマカは町中にも棲息しています。このため、日ごろから住居の周囲などで蚊を発生させない対策をとってください。

- 不要な水たまりをなくす
- 空き缶やペットボトルを放置しない
- 排水溝などのボウフラを駆除する

(2) 蚊に刺されない対策

ヒトスジシマカは5月～10月頃に吸血をします。この時期は蚊に刺されない対策をとるようにしましょう。なお、ヒトスジシマカは昼間に吸血する習性があり、とくに「日の出直後」や「日没前」が要注意です。

- 蚊の多い場所では皮膚の露出を控える
- 皮膚で露出している部分には昆虫忌避剤を塗布する
- 殺虫剤や蚊取り線香などを用いる

(3) 海外の流行地域での注意

東南アジアなどではデング熱の流行が常時みられています。雨季は患者数がとくに多くなります。日本からの渡航者が訪れる都市やリゾートでも流行しているため、滞在中は蚊に刺されない注意を心がけてください。



図5. ヒトスジシマカ

国立感染症研究所 HP より
<http://www0.nih.go.jp/niid/entomology/pictures/albopictus/albopictus.html>

デング熱にかかったら

● 疑う症状

海外の流行地域から帰国して高熱がみられる場合は、早めに医療機関を受診するようにしましょう。また、海外渡航していなくても、5～10月に高熱があり、関節痛、頭痛、発疹がみられる時は、医療機関を受診してください。

● 検査

デング熱の診断にあたっては、血液中のウイルス抗原検査や抗体検査などを行います。こうした検査は大きな医療機関で受けることができますが、受診前に電話などで検査が可能か確認しておきましょう。

● 治療

デング熱の治療には水分補給や解熱剤の投与など対症的な処置を行います。解熱剤としてはアセトアミノフェンが推奨されています。軽症であれば外来で経過をみますが、重症なケースは入院となり、輸液（点滴）などの治療が実施されます。

● 周囲に感染させないため

デング熱と診断された人や、それを疑う症状のある人は、蚊に刺されないように注意してください。患者を吸血した蚊が周囲に感染を拡大させる原因になります。熱のある時期は外出を避けて、屋内で過ごすようにしましょう。

